

〈研究成果の紹介〉

マット植物生産に適するグランドカバープランツの栽培マニュアル

農業研究部園芸グループ

1 成果の内容

景気低迷の影響で生産が低下傾向にある植木産業を活性化させるため、「マット植物(根域を薄層マット状にした新規規格の緑化植物)」を開発しました。マット化の可能な植物について、98種類のグランドカバープランツの中から特に有望な11種類を選定し、その栽培マニュアルを作成しました。

使用する用土は、本県で入手しやすい山砂にピートモス、パーライトを配合し、消石灰によってpHを調整します。

定植に用いる苗は、植物特性に合わせて株分け苗、セル挿し苗を利用し、4~16株/トレイ区画の密度で植え付けをします。しかし、マンネングサ類は植物体を細断し、マット用土にばらまき処理する方法で省力的な植え付けが可能です。

施肥管理は、シマカンスゲ等8種は、緩効性化成肥料N0.4~0.8g/L、フィリヤブラン、チシマタンポポ、オオイタビは同N1.6g/Lの元肥処理が有効かつ省力的です。(L:用土量、リットル)

マット化に有望な11種類

アガパンサス、イブキジャコウソウ、ウツボグサ、オオイタビ、オタフクナンテン、シマカンスゲ、チシマタンポポ、フィリヤブラン、ミヤママンネングサ、ケキシコマンネングサ、リシマキア



シマカンスゲ

ウツボグサ



フィリヤブラン

メキシコマンネングサ

薄層条件下で栽培するため、夏期の容器内温度上昇による生育停滞を防止するため、チシマタンポポを除いて30~60%の遮光処理が必要です。

2 技術の適用効果と適応範囲

緑化に関する新キーワード「早期緑化」、「屋上緑化」、「法面保全」、「ガーデニング」に対応した新規需要が期待できます。北勢地域のコンテナ生産農家が対象です。

3 普及・利用上の問題点

- 1)栽培は25×25×3cm・2連のプラスチック容器(T1トレイ)を使用します。
- 2)水稲育苗トレイの利用が可能ですが、根域をトレイ内にまとめるため、不織布シート敷設、排水穴の加工等の対策が必要です。

(内山達也:現中央農業改良普及センター)

フィリヤブランの栽培マニュアル



地上部の画像



根域の画像

特性

ユリ科ヤブラン属
淡黄色のしまふが安定しています
新葉時期から10月まで「ふ」が美しい
葉と花(9月開花)との調和がよい
半日陰を好むが、陽地でも育成します

栽培方法

①定植密度
1芽を3条×3
列(9芽/トレイ)
25×25cmトレイ条件
定置後8ヶ月で出荷可能

③肥料

被覆複合肥料180
1.6g(成分)/用土リットル
全量元肥施用

栽培時の注意事項

分けつによって株が増えます
栽培には株分けが適します
苗の根長は5cm程度でよい
定植時に葉1/2程度の切除でよい
トレイは、25×25cm(2連)
定植適期は3~4月

②定植用土

山砂:ピートモス:パーライト
1:1:1
三重で確保しやすい山砂を使用

④夏期の遮光

30%程度の遮光がよい
期間:梅雨明けから9月まで